

初めての中国訪問の印象は最悪だった しかし中国進出が会社を助けることに

株式会社エフエスカンパニー 代表取締役社長 谷本 龍二 氏

勤めていた会社から円満退社し、独立創業。工作機械にはなくてはならない機械工具や切削工具、またその機械までも扱う株式会社エフエスカンパニー。今回は、11月実施した訪中国で中国の営業所にも訪問させていただきました、株式会社エフエスカンパニーの谷本龍二さんをおたずねし、中国でのビジネスや今後の展開などについてお聞きしました。



谷本 龍二 氏

初めての中国は、訪中国で

日系企業を中心に工具の販売を行う企業として2002年より中国へ進出。高度な技術知識や商品知識が必要とされる特殊工具に特化した戦略で、日中双方で堅実な経営をされている谷本さん。同じ支部で仲の良かった会員（現在も同研究会会員）に誘われ、1993年の訪中国に参加。中国に足を踏み入れたのはその時が初めてだったとか。「当時の中国は、街は汚く、ビールは冷えていないし、食事まったく口に合わずで、仕事では絶対に来ることはないと思って帰ってきました。しかし、その後お客さんからの誘いがあり、一緒に訪中国で中国に行った人も先に進出していたこともあって、どこか縁のようなものを感じたのですね。進出することに決めました。しかし、あの時進出していなかったら、その後起こったリーマンショックで、弊社はなくなっていたと思います」リーマンショックの時には国内の仕事が7割も減り、その状態が2年間ほど続いたそうで、そんな時でも中国では多からずも商売ができていたので、助かったのだと谷本さんは語ってくれました。

中国の現状とチャイナプラスワンについて

現在の中国（特に進出されている浙江省平湖市や江蘇省蘇

州新区）についてお聞きすると「どちらも都会に近いので、人件費の高騰が激しく、どこの企業も人材不足で悩んでいます。弊社も毎日人材センターへ行き面接をするなど、必死にならないと人材を確保できないのが現状です。しかし、仕事はまだまだ引き合いは多く、日本で作っている弊社の製品も70%は中国向けです。分野的にはFAやロボット関連、そしてEV（電気自動車）関連です。エンジン部品などの自動車部品に関する仕事は減ってきています。変わって電気自動車関連の仕事はこれからといったところでしょうか。とはいえ、人件費の高騰と人材不足は避けられない状況で、我々の業界関連の企業も中国以外の国での製造も盛んに始めています。弊社もあるお客様からの依頼でベトナムのハノイ、そしてフィリピンのマニラに事務所を出す予定にしています。我々にとっては、未知なる場所ですので不安もありますが、中国をここまでしてくれた息子が手伝ってくれるので、心強く思っています。中国では後からできる法律で泣かされたりもします。これから進出される企業は、そうしたことも考慮し、しっかりと仕事の目算を立てて進出することをおすすめしたいと思います」とのお話でした。

まとめ：株式会社ギャレークルー 合田 耕作